

1844 年以後時の預言はもうないのか？

No More Time Since 1844?

編集者：ジョン・バーテルズ

目次

エレン・ホワイトはダニエル書の預言を未来に適用したか？ -p. 1

エレン・ホワイトは 1844 年以後もう時の預言はないと多数の箇所述べているのではないか？ -p. 4

預言に関するエレン・ホワイトの引用文の漸進的な啓示 -p. 8

エレン・ホワイトの「時のテストはもうない」に関する 難解な引用文の評価 -p. 10

引用文 1 -p. 10

引用文 2 -p. 11

引用文 3 -p. 12

エレン・ホワイトはダニエル書の預言を未来に適用したか？

「ダニエルが神から受けた光は、特に終末時代のために与えられました。シナイ地方の大川、ウライとヒデケル [チグリス (口語訳 10:4)] のほとりにダニエルが見た幻 (複数形) は、現在成就の過程にあり、予言されているすべての出来事は間もなく起るでしょう」。一聖霊に導かれて・上巻 134 頁、原稿 (英文) 第 16 巻 334 頁

- ウライ川とヒデケル川の幻 (複数形) は、ダニエル書 8 章から 12 章までの幻を含んでいます。
- 彼女がこの引用文を書いたとき、彼女は「予言されているすべての出来事は間もなく起るでしょう」と告げました。これは 1896 年に書かれたもので、大失望のずっと後のことです。

「時が 70 年の捕囚期間の終わりに近づいたころ、ダニエルは、エレミヤの預言について非常に心を悩ました。・・・ダニエルの祈りがささげられている間に、天使ガブリエルは、天の宮廷から飛んで来て、彼の祈りが聞かれ、答えられたことを彼に告げるのである。この強力な天使は、彼に知恵と悟りを与えるため一きたるべき時代の奥義を彼の前に啓示するために派遣されたのであった。このように、真理を知り、悟ることを熱心に求めているうちに、ダニエルは、天の代表として遣わされたメッセンジャーとの交わりに導き入れられたのである。

彼の祈りの答えとして、ダニエルは、彼と彼の民が最も必要としていた光と真理だけでなく、この世の躰い主の来臨に至るまでの未来の大事件の光景を見せられた」。一教会への勧告・上巻 206, 207 頁、清められた生活 44, 46 頁、レビューアンド・ヘラルド誌 (英文) 1881 年 2 月 8 日第 23 段落

- 再び彼女は、彼女の時代から未来の文脈を用いています。そして彼女はダニエルの預言をキリストの再臨に至るまでの時にさえ適用しています。
- また、この引用文は、ダニエル9章の預言の一部分がキリストの再臨の時まで延びていることを明らかにしています。

「天の宇宙とこの世界との間には素晴らしい結びつきが見られます。ダニエルに啓示された事柄が、パトモス島のヨハネに与えられた黙示によって後に補足されました。これら二つの書物は、注意深く研究されなければなりません。二度にわたりダニエルは、終わりの時までどれほどの時間があるのかと聞きました。・・・ダニエル書はヨハネへの黙示の中で封が開かれ、この地上歴史の最後の場面に向かって私たちを導くのです。』・・・これらの事柄を教えてください。一聖霊に導かれて・上巻 136-138 頁

- ダニエルは二度にわたり(ダニエル 12:6, 8)「終わりの時までどれほどの時間があるのか」と尋ねました。
- ダニエル書の預言は、「この地上歴史の最後の場面に向かって私たちを導くのです」。

「大終結の前夜までのびているダニエルの預言的期間は、その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている」。一レビュー・アンド・ヘラルド誌(英文) 1883年9月25日

- ダニエル書の預言的期間(時の預言)は、大終結の「前夜」までのびています。
- 「その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている」。
- これも 1883 年以後の未来の文脈です。

「ダニエルは、日の終りに、彼に分け与えられた地(lot [ロット]=一区画)に立つであろう(shall: 未来)[欽定訳ダニエル 12:13]。ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられようとしている(to be given 未来)第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を与えられる」。一原稿(英文)第19巻320頁(1887年)

- エレン・ホワイトはダニエル 12 章でしか見られない言葉を用いています。彼女は、キリストご自身(亜麻布を着て水の上にいる人)のこれらの言葉を 1887 年よりも後に来ることになる三天使の使命と結びつけています。これらのことがいつの時のものなのかという事に関して誤解の無いことを確実にするために、神は、ダニエル 12 章の終りの時のテーマを強調するよう彼女に指示なさいました。

「大きな働きが短期間のうちになされるであろう。間もなく、メッセージは神の命令によって与えられ、それは大いなる叫びへとふくれ上がるであろう。その時ダニエルは、彼の証をするために彼に分け与えられた地(lot [ロット]=一区画)に立つであろう」。一原稿(英文)第2巻20ページ(手紙54、1906年)

- メッセージ（彼女はそれを明確にはしなかったが）は大いなる叫びへとふくれあがるでしょう。
- その時ダニエルは自分のロットに立つでしょう。
- 1906年以後の未来の文脈

「キリスト初臨の使命が、キリストの恩恵の王国を宣言したように、キリスト再臨の使命は、キリストの栄光の王国を宣言している。そして第2の使命は、第1の使命と同じに、預言に基づいている。末の世についてダニエルに言われた天使のことばは、終りの時に理解されるのであった。その時になると、「多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」「悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう」と言われている(ダニエル 12:4、10)」。—希上 289

- 神の預言の知識は増すでしょう。賢い者は悟り、それに対して、悪い者は悟らないと述べられています。
- 神の民（賢い者）は悟るでしょう。

「封じられていた書は黙示録ではなく、ダニエルの預言の中で終わりの時代について述べている部分であった。」—患下 290 頁、セレクトッド・メッセージ（英文）第2巻 105 頁

- 幻と言う言葉がダニエル書 8 章から 12 章の中で 2 種類の方法で用いられていることに注目してください。その幻と訳されている言葉の一つはハーゾーンで、これは善と悪との間の最後の闘いに関連しています。幻と訳されるもう一つの言葉はマーレーで、これは終わりの時代の契約を守る民の完成に関連しています。
- 最後の時代に関連したハーゾーンの幻（ダニエル 8:1, 2, 17）は封じられた部分（ダニエル 8:26 下句, 12:8, 9, 13）でした。
- ダニエルはマーレーの幻の部分は理解（2300 日、ダニエル 8:16, 26 上句, 27, 10:1）しましたがハーゾーンについては理解出来ませんでした。

「ダニエルは、目の終りに、彼に分け与えられた地（lot [ロット] = 一区画）に立つであろう（未来）[欽定訳ダニエル 12:13]。ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられようとしている第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を与えられる（未来）。小さな巻物の開封は、時に関してのメッセージであった」。—原稿（英文）第 19 巻 320 頁、1887 年

「ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられようとしている第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を与えられる（未来）。小さな巻物の開封は、時に関してのメッセージであった」。—原稿（英文）第 1 巻 99 頁、1887 年

- 「世界に伝えられようとしている」は未来の文脈です。

- メッセージの封じられた部分とは、時に関するメッセージでありました！ダニエル 8 章から 12 章は未だ未来に成就しなければならない定められた時を取り扱っています。

エレン・ホワイトは 1844 年以後、もう時の預言はないと、多数の箇所で述べているのではないか？

「1844 年から後において、時は、テストでなくなった。そして、時は、2 度とテストとはならないのである。主は、第三天使の使命が、前進し、主の散らされた子供たちに宣言されなければならないが、しかしそれは、時に重点をおくものであってはならないことを、わたしに示された。ある人々は、時についての説教から起きてくる誤った興奮を感じているのを、わたしは見た。しかし、第 3 天使の使命は、時の力以上に強力なものである。この使命は、それ自体の基盤の上に立つことができるもので、時によって強化される必要がないことを、また、きびしく、すみやかになしとげられることを、わたしは見た」。—初文 155, 156

- 一見、ダニエル 12 章の時の未来適用に異議を唱える者が正しいかのように見えます。しかし考えていただきたいと思います。ここでのエレン・ホワイトの書き物の文脈はどのようなものでしょうか？彼女はどのような種類のテストに言及しているのでしょうか？彼女がこのようなことを書いたとき、何が起こっていたのでしょうか？
- この質問への答えを理解するために、私たちはこの引用文、そしてこれに類した引用文の文脈を学ばなければなりません。まず初めに、初代文集 154–156 ページにある「集められる時」という表題の章の始めの三つの段落を学び、それから 166–169 ページの「ウィリアム・ミラーの夢」を読んでください。
- 1844 年以前には、神の民の間に強い一致がありました。大失望に続いて、「暗黒と混乱」が起り、神の民は散らされてしまいました。「常供」や「心霊術」などのような問題の伴うさまざまな誤りが起こりました。更に、キリストの来臨の新たな日が設定されました（大下 180, 181 頁参照）。繰り返しエレン・ホワイトは、どうしてキリスト再臨の日が説教されることが以前は許され、そして今は決して再び、神の民をテストする目的のための未来の預言の中で、キリスト再臨の日や時が設定されるべきではないかということの理由を説明しなければなりません。彼女は、イエスの再臨の「時」に基づいた第三天使の説教は「誤った興奮」（上記の引用文を参照）を引き起こすということを説明しました。そして彼女は、神の運動をこれ以上傷つけることを防ぐために、多くの機会でこの習慣に反対する文を書きました。この問題の文脈は、イエスの再臨の「時」の設定に関係するものであります。
- 「時」に関するより明確な理解のために、次の引用文の説明を学んでいただきたいと思います。

「しかし、神は、審判の警告（1844 年のイエスの再臨）をそのまま伝えることをお許しになって、ご自分の恵み深い御目的を果たされた。大いなる日が近づいていた。そして神は摂理のうちに、人々に彼らの心の状態を示すために、特定の時に関する試験をお与えになった。使命は、教会を試し、清めるためのものであった。彼らは、彼らの愛着がこの世にあるのか、それともキリストと天にあるのかを、悟らせられるのであった。彼らは救い主を愛すると言っていた。その愛を、今、証明しなければならな

った。彼らは、快く世俗の希望と野心を捨てて、主の再臨を歓迎したであろうか。この使命は、彼らの真の靈的狀態を彼らに認めさせるためであった。それは、彼らが悔い改めて謙そんに主を求めるようになるために、恵みのうちに与えられたのであった」。—大下 47

「世の嘲笑と非難を受け、遅延と失望の試練に会う時に、彼らは、信仰を捨てるであろうか。彼らは、神が彼らを扱われる方法が、すぐに理解できないからといって、神の言葉の明白な証言に支持された真理を捨ててしまうであろうか」。—大下 48

「キリスト再臨の時として特定の時を宣言したことは、あらゆる階級の多くの者、すなわち、説教壇に立つ牧師から神を恐れぬ無暴な罪人に至るまでの、大反対を受けた」。—大下 68

「将来を見せず隠しておいて、神の民を決断の地点に導くことは、神の計画であった。キリストの再臨の明確な時を宣べ伝えずに、神が計画された働きを成し遂げることができなかった。サタンは、審判と恩恵期間の終わりに関する大事件を、はるか遠い将来のこのように多くの人々に考えさせていた。人々に、今準備をすることを熱心に求めさせることが必要であった」。—初文 403 頁

「神が教会を試み、清めるために送られた使命は、キリストよりはこの世を愛する人々の数がどんなに多いかということ、あまりにも明白に示した」。—大下 81

「私は、何度も何度も、時を定めることに関して警告を受けました。時を土台にしたメッセージが再び神の民に与えられることは決してないでしょう。私たちは聖霊の降下についても、キリストの再臨についても、確定した時を知ることはないのです」。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1892年3月22日

- 彼女がどのような種類の時に言及しているかに注目してください。
「聖霊の降下」または「キリストの再臨」

「いかなる有限な人間も、数字や象徴や型を作って、工夫したり計算したりすることによって、主の来臨の時間について特定して知ることは、神の摂理ではない」。—原稿（英文）第10巻272頁

「キリストの来られる時あるいは来られない時を決める真のメッセージを持っている者は誰もいない。キリストはご自分の来臨を5年、10年、あるいは20年延期なさると言う権利を、神は誰にも与えておられないと確信しなさい。『だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである』（マタイ24:44）これが我々のメッセージである。これがまさに中空を飛ぶ三人の御使が宣言しているメッセージである。今なさねばならない働きは、墮落した世界に対するあわれみのこの最後のメッセージを広く知らせる働きである。新しい生命が天から来て、全ての神の民を占有するであろう。しかし、教会に分離が起るであろう。二つのグループに発展するのである。麦と毒麦は収穫まで両方とも育つままにされる」。—セレクトッド・メッセージ（英文）第2巻113頁第3段落

- イエスが来られるという宣言は、1843年と1844年に神の民のためのテストとして、**キリスト再臨の時**を用いました。人々の全ての注目と経験はキリストの再臨の日に向かって集中していました。エレン・ホワイトは、キリスト再臨の日はもう二度とテストする要点とはならないと言いました。
- しかし彼女は、キリスト再臨が一年のどの時期になるとは言っています。

「こうした型は、そのできごとだけでなく、その**時**に関しても成就した。（十字架、復活）・・・これと同様に、再臨に関連した型も、象徴的奉仕の中で指示されたその**時期**に成就しなければならない」。—大下 106

- エレン・ホワイトはここで、キリストの再臨は象徴的奉仕の中で指示されたその**時期**に成就しなければならないと指摘しています。大贖罪日は秋に行われたので、それがキリストが再臨なさる一年の**時期**となります。

「やがてわれわれは、多くの水の音のような神の声を聞いた。**その声が、イエスの再臨の日と時とをわれわれに知らせた**」。—初文 63, 64

- これはキリスト再臨の日時の預言ではないでしょうか？確かにそうであります。しかし「時のテスト」とはなりません。従って、これはエレン・ホワイトの他の言葉と調和します。
- けれどもこれは、時の預言が今もなお存在するという事実の一例なのです。
- 初代文集 64 頁に、神がキリスト来臨の日と時とを私たちに知らせてくださるということと、私たちが救出の時を経験し、その時悪人たちはもはや私たちに傷つけることができないということが書かれています。その後「**やがて**」私たちはキリストの再臨を目撃するでしょう。今の時点では、私たちの救出の時とイエスの再臨の時との間に、どれだけの時間がこの地上であるのかについての説明はありません。私たちはその答えを待たなければなりません。
- これから先に成就することになっている時の預言の明確な一例は、黙示録 20:2-5 です。これはこれから成就する時の預言であるということを、誰も否定することはできません。
- ダニエル 12 章の時の期間（1260 日、1290 日、そして 1335 日）は、イエスの再臨についての「時のテスト」ではありません。そして、この情報から彼の再臨の日付を「計算」することは決してできません。エレン・ホワイトは次のように述べました。

「**大終結の前夜までのびているダニエルの預言的期間は、その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている**」。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1883年9月25日

「ダニエルは証をする。これは、主が重大で厳粛な諸事件の幻の中で、彼に啓示したものである。我々がそれらの諸事件の成就する門口に立っている故に、我々はそれらの事件を**知らなければならない**」。—原稿（英文）第1巻47ページ（1896年）

「ダニエル 12 章を読み、研究しようではないか。それは終りの時までには我々すべての者が理解を必要とするであろう警告である」。一原稿（英文）第 15 巻 228 頁（1903 年）、最終時代の諸事件 3 頁

「間もなく、メッセージは神の命令によって与えられ、それは大いなる叫びへとふくれ上がるであろう。その時ダニエルは、彼の証をするために彼に分け与えられた地（lot [ロット] = 一区画）に立つであろう。一原稿（英文）第 2 巻 20 ページ（手紙 54、1906 年）

- 上の 4 つの引用文の未来の文脈に注目してください。彼女は未来の諸事件について説明していますが、これらを書いたのは 1883 年、1896 年、1903 年、1906 年でありました。
- 「彼に分け与えられた地に立つ」という言葉は、3 つの時の預言（預言的期間）のあるダニエル 12 章から来ています。ダニエル 12 章は、エレン・ホワイトが未来であると述べている時の預言を含んでいます。
- 各時代の争闘 19 章から 21 章を読んで、概要をとらえて下さい。
- 神のみ言葉を読んで、ダニエル 8:17 と 8:19 の隠れた意味を注意深く学びましょう。「・・・この幻は終りの時にかかわるものです」（17 節）。そして「わたしは憤りの終りの時に起るべきことを、あなたに知らせよう。それは定められた終りの時にかかわるものであるから」（19 節）。これらの節は、イエスの再臨直前にある、憤り（神の怒り、トランペット／災害）の終り（ストロング・コンコルダンスの定義：時の末端）の時における定められた時をさし示しています。更に、「あなたに知らせよう」と書かれていますので、私たちはこの定められた時と、その時に起ることを知るようになるでしょう。ダニエル 8:17 と 8:19 は直接ダニエル 12 章の時の期間と結びついています。そしてダニエル 12 章は「時の末端」という意味をもつ「終りの時」の文脈の中で明確に書かれています。12 章が言及している内容は、最後の救出、復活、神の民の清め、多くの者の回心、残された時についての質問、終りの時の発表などです。更に、これらの聖句は、終りの時の文脈の中で、時の預言を含んでいます。しかし、これらの預言のどれも、イエスの再臨の時を正確に示しているわけではありません。これらの終りの時の枠組みとキリスト再臨との間の時がどれほど延びるかは、神のみがご存知なのです。キリスト再臨の日付に関する「時のテスト」はここには一切与えられていません。

末の世についてダニエルに言われた天使のことばは、終りの時に理解されるのであった。その時になると、「多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」「悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう」と言われている（ダニエル 12:4、10）。
一希上 289

「この運動がいつ起こるものであるかについては、メッセージ（黙示録 14:6、7）自体が明らかにしている。それは、「永遠の福音」の一部であると宣言されている。そして、審判の開始を告知している。救いのメッセージは、各時代において宣べ伝えられてきた。しかし、このメッセージは、終末時代においてのみ宣布される福音の一部分である。というのは、その時において初めて、さばきの時が来たということが出来るからである。預言は、審判が始まるまでに相次いで起こる種々の事件を示している。特

にダニエル書がそうである。しかし、ダニエルは、最後の時代 (eth qets:エス・ケッツ) に関する預言を、「終りの時まで」秘し、封じておくように命じられた。この時が来るまで、これらの預言の成就に基づいて審判に関するメッセージを宣布することはできなかった。しかし、終わりの時に、「多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう」と預言者は言っている（ダニエル 12:4）。
一大下 50

- 私たちは現在終りの時代に生きています。そして預言が宣言しているように、ダニエル書と黙示録の最後の諸事件に関する私たちの理解は、深まってきました。「そして知識が増すでしょう」（ダニエル 12:4）。神は忠実なお方なのです。

預言に関するエレン・ホワイトの引用文の漸進的な啓示

私たちの先駆者が大失望の夜を過ごした後、預言に関する新しい理解が必要ということが明らかになりました。その後間もなくして 2300 年の意味が理解されるようになりました。そして数年後、彼らはダニエル 12 章の「時の期間」が誤解されていたことに気が付きました。その頃、すなわち 1850 年にエレン・ホワイトは新しい預言の図表の制作を依頼しました。

「1843 年の図表は、主の手によって導かれたもので、変更すべきではないことを主は私に示された。数字は神のみこころの通りであった。また神の手が数字の中のある間違いをおおい隠して、彼の手が除かれるまでは、だれもそれに気づかないようになっていたことがわかった。」。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1850 年 11 月 1 日、初代文集 155 頁

「神のみ手は、預言の期間の計算上の誤りを覆い隠された」。—初文 387 頁、預言の霊第 4 巻 228 頁、大下 72 頁

「神は、図表を発行する必要性を私に示された。私はそれが必要とされていること、そして表にして明白にされた真理が多くの影響を及ぼし、人々に真理の知識に来させるのを見た。」。—手紙 26、1850 年 11 月 1 日、1 頁

新しい図表は、1843 年を 1844 年に変更し、ダニエル 12 章の 1290 日と 1335 日を除きました。これらの預言は理解されていませんでした。

1850 年の後、何年間も預言については沈黙が続きました。神は、新しい再臨信徒たちに他の真理を示しておられました。安息日や教会組織などは、発見し学ばなければならなかった研究分野でした。

1883 年に、時についての預言としては久しぶりのメッセージがエレン・ホワイトに与えられました。「ダニエルの預言的期間」（1883 年より将来に向かって注目している）は「大終結の前夜」にまで及んでいると言うのです。彼女はダニエル 12 章に言及していたのでした。

「大終結の前夜までのびているダニエルの預言的期間は、その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている」。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1883年9月25日

それから更に時が過ぎて、1887年に神は彼女に次のように示されました。

「ダニエルは、日の終りに、彼に分け与えられた地（lot [ロット] =一区画）に立つであろう [欽定訳ダニエル 12:13]。ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられようとしている第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を与えられる（未来）。小さな巻物の開封は、時に関してのメッセージであった」。

—原稿（英文）第19巻320頁、1887年

それから更に時が過ぎて、「キリスト、我らの義」の偉大なメッセージが教会に力強く届きましたが、強い抵抗に会いました。ついに1890年頃、すばらしいことが起り始めました。神がエレン・ホワイトに新しい真理を開き始めたのです。この時から1906年までの間に、終りの時の預言に関する最も驚くべきメッセージが彼女に与えられました。以下がそのいくつかの引用文です。

「ダニエルは証をする。これは、主が重大で厳粛な諸事件の幻の中で、彼に啓示したものである。我々がそれらの諸事件の成就する門口に立っている故に、我々はそれらの事件を知らなければならない」。

—原稿（英文）第1巻47ページ（1896年）

「ダニエル12章を読み、研究しようではないか。それは終りの時までには我々すべての者が理解を必要とするであろう警告である」。

—原稿（英文）第15巻228頁（1903年）、最終時代の諸事件3頁

「間もなく、メッセージは神の命令によって与えられ、それは大いなる叫びへとふくれ上がるであろう。その時ダニエルは、彼の証をするために彼に分け与えられた地（lot [ロット] =一区画）に立つであろう」。

—原稿（英文）第2巻20ページ（手紙54、1906年）

これらのメッセージに関して、神は、1892年に非常に厳格ではあるが賢明な警告を書くよう彼女に告げられた。

「もうこれ以上の真理は啓示されない、また、聖書の我々のすべての解説には間違いはない、このような立場を取る言い訳は、誰にもできない。ある教理がわが民によって何年もの間真理として保持されてきたという事実は、我々の考えには絶対誤りがないという証拠とはならない。年月が間違いを真理にすることはない。そして真理は徹底的な調査にも耐えられる。真実な真理は厳密な調査を受けても何も失うものはない」。

—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1892年12月20日

エレン・ホワイトの「時のテストはもうない」に関する難解な引用文の評価

引用文 1 :

「私は、自分が [J・M・] ガーマイヤー氏と彼の働きに少しも信頼していなかったと言わざるをえません。去った秋のジャクソン・キャンプ・ミーティングの時に出版されたパンフレットは、私たちの民からの支持は少しもありませんでした。それらのパンフレットは、レビュー・アンド・ヘラルドのリストを盗用して、人々に達するように郵送されたのでした。

ガーマイヤー氏の娘は、あるいは彼が彼女のためにそう主張しているのか、幻を持っていると主張します。しかしそれらの幻は神の証印を押されていません。それらは、私たちが多く経験してきたものと同様の性質のもの、すなわちサタンの欺きです。

私は、ジャクソン・キャンプ・ミーティングでこの狂信的なグループに、彼らは魂の敵の働きを行っていて、暗黒の中にいるということをはっきりと述べました。彼らは、1884年の10月に恩恵期間が終了するという大きな光を持っていると主張していたのでした。

私はあそこで、1844年以後神の与えられるメッセージの中には特定の時はないということを主は喜んで私に示されたと公に述べました。また私は、4, 5名の人が関わって非常に熱心さで擁護しているこのメッセージは異端であることを知っていることとあそこで述べました。このかわいそうな子の幻は神のものではありません。この光は天から来たものではありません。時は短いです。しかしまだ終りではありません。生ける神の印で人々が封印されるために彼らを準備する偉大な働きは完成されなければなりません」。—狂信と悪をあばく (パンフレット) (英文) 9, 10 頁 (1885年)、セレクトッド・メッセージ (英文) 第2巻 72, 73 頁

エレン・ホワイトはこの引用文で何を述べようとしているのでしょうか？ もし彼女が「時のメッセージ」はないと言うつもりであるなら、彼女自身の「靈感」と矛盾することになります。彼女は大争闘下巻 106 頁で、キリストは過越しの祭の日その時の正確な時間に死なれたと述べています。その次に彼女は、秋の祭は終りの諸事件がいつ起こるかということを示しているとはっきりと述べています。私たちは、秋の祭の時を正確に知っています。また彼女は、最後の諸事件は象徴的奉仕の中で示された時に成就しなければならないと明確に書き加えています。

「これと同様に、再臨に関連した型も、象徴的奉仕の中で指示されたその時期に成就しなければならない」。—大下 106 頁

その次に、彼女は、レビュー・アンド・ヘラルド誌 (英文) 1883年9月25日号のなかで、ダニエルの時の期間が大終結 (キリスト再臨) の前夜にまで及んでいると述べています。

「聖書には、特に私たちの時代と関係のある真理が示されている。人の子の現れる直前の期間にまで、聖書の預言はさし示しており、この期間にその預言の警告と脅迫は抜群に適用する。大終結の前夜までのびているダニエルの預言的期間は、その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている。黙示録もまた

最後の世代の人々のための警告と教訓で満ちている。愛された弟子ヨハネは、聖神の民の義務と危険を示している。誰も無知である必要はない。誰も神の日の到来に不用意である必要はない」。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1883年9月25日

この明確な時の問題はダニエル12章に直接的に関係しています。段落の文脈に注目してください。それは、ほぼ成就しようとしている預言の最後の諸事件に完全に結びついています。彼女はまた原稿第19巻282頁において、サタンが光の天使として現れる時、黙示録13章の「最後の成就」が見えてくると述べています。

「最後の時代にサタンは、大いなる力と天来の栄光とをもつ光の天使として現れ、自分が全地の主であると主張するであろう。彼は、安息日は週の第7日から第1日に変更になったと宣言するであろう。そして彼は、週の第1日の主として、偽物の安息日を自分に対する忠誠のテストとして示すであろう。その後で、啓示者の預言の最後の成就が起きる。〔黙示録13:4–18引用〕」。—原稿第19巻282頁

1885年に彼女が未来の「時」へ直接言及する中で、彼女は何を述べようとしていたのでしょうか？私たちは正確に理解しなければなりません。この記事の始めの方で示したように、彼女は「特定の時」という言葉を用います。そしてそれはイエスの再臨を指示しています。それが引用文の文脈です。1844年以後、イエスの再臨のために設定された「特定の時」は、ありません。

引用文2：

「世は、すべての『時の宣言』を同レベルに置き、それを惑わし、狂信、そして異端と呼んだ。1844年以後常に私は、「私たちが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのように私たちを捕えることがないように、よく注意しなければならない」時の期間の中に現在私たちはいるという証をしてきた（ルカ21:34参照）。私たちは、目をさまして待っている者の姿勢をとりつつも、1844年の預言的期間の終了と主の来臨の時との間にいかなる時の宣言もないという立場をとってきた。私たちには、その日その時、あるいは特定の時がいつかは知らない。けれども、預言的計算はキリストが戸口まで来ておられることを示している」。—原稿（英文第）16巻178頁

この引用文を理解する手がかりは文脈の中に与えられています。この引用文単独ではいくつかの解釈が可能となり、「異なる解釈を証明する」引用文となり得ます。エレン・ホワイトは前の段落に文脈を与えたでしょうか？その通りです。上の段落と一しょに、その文脈がわかる前の段落を次に読んでみましょう。

「時を設定する者たちは、「自分の主人は**帰**り〔文脈に注目（編集者付加）〕が遅い」と言った不信心な者として私に主の呪いを宣言した。しかし、主は私が**キリストの現れ**を愛し、待ち望んでいることをご存じであるから、天の書は私の記録をそのようには書かないでしょうと、私は彼らに述べた。しかし彼らのしばしば繰り返される**特定の時**〔キリスト再臨に関する（編集者付加）〕のメッセージは、まさ

に敵が望んでいるものであった。そしてそれは、天来のものであった最初の時の宣言に対する信仰を動揺させようとして、サタンの目的のためによく仕えた。

世は、すべての『時の宣言』を同レベルに置き、それを惑わし、狂信、そして異端と呼んだ。1844年以後常に私は、「私たちが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日 [再臨の文脈に注目 (編集者付加)] がわなのように私たちを捕えることがないように、よく注意しなければならない」時の期間の中に現在私たちはいるという証をしてきた (ルカ 21:34 参照)。私たちは、目をさまして待っている者の姿勢をとりつつも、1844年の預言的期間の終了と主の来臨の時との間にいかなる時の宣言もないという立場をとってきた [天来の時の宣言がなされた 1844年以後、キリスト再臨の別な日付設定はない—これが文脈である (編集者付加)]。私たちには、その日その時、あるいは特定の時がいつかは知らない。けれども、預言的計算はキリストが戸口まで来ておられることを示している」。—原稿 (英文) 第 16 巻 178 頁

注意深く分析すると、文脈は明白です。上のメッセージ全体は、イエスの来られる時を設定していた熱心過ぎる人々に関して説明したものです。彼女がただ単に述べていることは、日付設定はただ一つだけであって、それは天来のものであったということです。

引用文 3 :

「天使が厳粛な誓いをもって、宣言しているこの時というのは、この世界歴史や恩恵期間の終わりではなく、預言的時の終りのことであり、それは主の再臨に先行するものである。つまり、人々は特定の時について別の使命を持たないであろう。1842年から1844年までに及ぶこの期間の後には、特定の預言的時を追求することはあり得ない。最長の計算は 1844年の秋に達する」。—SDA 聖書注解 (英文) 第 7 巻 971 頁第 7 段落、原稿 (英文) 第 19 巻 320 頁第 4 段落 (1900 年)

この引用文は一見、1844年以後の時への反対にかなりしっかりしているように見えますが、注意深く見てみましょう。まず、この引用文はこれだけで孤立しているのではなく、黙示録 10 章に関する更に大きな思想から来ていることに留意してください。

それはキリストにほかならない—「ヨハネに教えた力強い天使はイエス・キリストにほかならなかった。右足を海の上に、左足を乾いた地の上に踏みおろしていることは、サタンとの大争闘の最後の場面で、キリストが演じている役を示している。この位置は、全地を支配するキリストの絶大な力と権威を示している。大争闘は、時代が経過するにつれて、ますます激しさを増し、決定的なものとなってきた。そしてそれは、老練な暗黒の力の働きが最高潮に達する、最終の場面の時まで継続するのである。サタンは悪人と一体となって、全世界及び、真理に対する愛を受け入れない教会を欺くであろう。しかし、力強い天使は注意を促し、大きな声で叫んでいる。彼は、サタンと共に真理に反対する人々に、ご自分の力と権威の声をお示しになる。(SDA 聖書注解 971 頁第 3 段落)

七つの雷が声を発した後、小さな巻物に関してダニエルに命じられたように、『七つの雷の語ったことを封印せよ』という命令がヨハネに語られた。これらの事は、順序通り開かれるであろう未来の諸事

件と関係がある。ダニエルは、日の終りに、彼に分け与えられた地 (lot [ロット] =一区画) に立つであらう [欽定訳ダニエル 12:13]。ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられようとしている第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を与えられる。小さな巻物の開封は、時に関するメッセージであった。(SDA聖書注解 971 頁第 4 段落)

ダニエル書と黙示録は一つである。一つは預言であり、他は啓示である。一つは封じられた書であり、他は開かれた書である。ヨハネは雷が語った奥義を聞いたが、それらを書き留めてはならないと命じられた。(SDA聖書注解 971 頁第 5 段落)

七つの雷の中で示され、ヨハネに与えられた特別な光は、第一、第二天使の使命の下で起こる諸事件の描写であった。しかし、これらの事柄を知ることは、人々にとって最善のことではなかった。なぜなら、彼らの信仰はどうしてもテストされなければならなかったからである。神の命令の中で最も驚くべき、先を行く真理が宣言されるのであった。第一、第二天使の使命は宣言されようとしていた。しかし、これらの使命がその特定の働きを成し遂げるまでは、更なる光は啓示されないことになっていた。これは一つの足を海の上に踏みおろして立ち、最も厳粛な誓いをもって、時はもうないと宣言している天使によって描写されている。(SDA聖書注解 971 頁第 6 段落)

天使が厳粛な誓いをもって、宣言しているこの時というのは、この世界歴史や恩恵期間の終りではなく、預言的時の終りのことであり、それは主の再臨に先行するものである。つまり、人々は特定の時について別の使命を持たないであらう。1842 年から 1844 年までに及ぶこの期間の後には、特定の預言的時を追求することはあり得ない。最長の計算は 1844 年の秋に達する。(SDA聖書注解 971 頁第 7 段落)

一つの足を海の上に、他の足を地の上に踏みおろしている天使の位置は、そのメッセージが広い範囲にわたって宣言されることを意味している。それは広い海を渡り、他の国々へ、全世界にまで伝えられるであらう。小さな巻物を食べるという描写は、真理を理解し、メッセージを喜んで受け入れることを意味している。我々の主の到来の時に関する真理は、我々の魂にとって尊いメッセージであった」。(SDA聖書注解 971 頁第 8 段落) —エレン・ホワイト原稿 (英文) 59、1900 年

文脈上の「最後の場面」、「最終の場面」、「未来の諸事件」、「日の終り」、「神の命令の中で」、「全世界」などの時についての言葉に注目してください。また時の手がかりとなる次の言葉にも注目してください。「時」、「であらう」、「その時」、「までは」など。これは未来の文脈で 1900 年に書かれた終りの時に関する引用文です。

第 4 段落 (SDA聖書注解 971 頁第 4 段落)

七つの雷が声を発した後、小さな巻物に関してダニエルに命じられたように、『七つの雷の語ったことを封印せよ』という命令がヨハネに語られた。これらの事は、順序通り開かれるであらう未来の諸事件と関係がある。ダニエルは、日の終りに、彼に分け与えられた地 (lot [ロット] =一区画) に立つであらう [欽定訳ダニエル 12:13]。ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられようとしている第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を与えられる。小さな巻物の開封は、時に関するメッセージであった。(SDA聖書注解 971 頁第 4 段落)

更に彼女は、小さな「開かれた」巻物は「[時に関するメッセージ](#)」であると述べています。その同じ文脈／段落で、彼女は七つの雷は「[順序通り開かれるであろう \(will\) 未来の諸事件](#)」であると述べています。その直後に彼女は、「ダニエルは日の終りに彼に分け与えられた地に立つであろう (shall)」、そして彼の預言は三天使の使命の中で「適切な場所を与えられる」と付け加えています。これらのことを踏まえると、彼女が示唆しているのは、キリスト再臨前の最後の諸事件の「順序」や「タイミング」は理解されるであろうということです。最後の諸事件のタイミングはダニエル 12 章に与えられています。そしてこれらのメッセージは「[日の終り](#)」に三天使の使命と一緒に宣言されようとしているのです。驚くべきことです。

忘れないでください：[「大終結の前夜までのびているダニエルの預言的期間は、その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている」](#)。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1883年9月25日

Paragraph 5

第5段落（SDA聖書注解 971 頁第5段落）

ダニエル書と黙示録は一つである。一つは預言であり、他は啓示である。一つは封じられた書であり、他は開かれた書である。ヨハネは雷が語った奥義を聞いたが、それらを書き留めてはならないと命じられた。（SDA聖書注解 971 頁第5段落）

終りの時に関するダニエルの一部分が封じられたように、七つの雷も封じられたことに注目してください。

「封じられていた書は黙示録ではなく、[ダニエルの預言の中で終わりの時代について述べている部分であった](#)。」—患下 290 頁、セレクトッド・メッセージ（英文）第2巻 105 頁

第6段落（SDA聖書注解 971 頁第6段落）

七つの雷の中で示され、ヨハネに与えられた特別な光は、第一、第二天使の使命の下で起こる諸事件の描写であった。しかし、[これらの事柄を知ることは、人々にとって最善のことではなかった。なぜなら、彼らの信仰はどうしてもテストされなければならなかったからである。神の命令の中で最も驚くべき、先を行く真理が宣言されるのであった。](#)第一、第二天使の使命は宣言されようとしていた。しかし、これらの使命がその特定の働きを成し遂げるまでは、[更なる光は啓示されないことになっていた。](#)これは一つの足を海の上に踏みおろして立ち、最も厳粛な誓いをもって、時はもうないと宣言している天使によって描写されている。（SDA聖書注解 971 頁第6段落）

ここで彼女は、1844年における神の民のテストを成し遂げるためには、ダニエルの最終時代のタイミングの預言の詳細は理解されるべきではないと更に詳しく説明しています。もし彼らがこれらのことを知ったならば、再臨運動は始まらなかったでしょう。しかし彼女は続けて、神の命令の中で[最も驚くべ](#)

き、先を行く真理が宣言されるでしょうと述べました。彼女は、理解されなかったことが理解されて世界に向けて宣言されるでしょうと言っているのです。次の引用文で彼女の思想を確認することができます。

「将来を見せず隠しておいて、神の民を決断の地点に導くことは、神の計画であった。キリストの再臨の明確な時を宣べ伝えずに、神が計画された働きを成し遂げることはできなかった。サタンは、審判と恩恵期間の終わりに関する大事件を、はるか遠い将来のこのように多くの人々に考えさせていた。人々に、今準備をすることを熱心に求めさせることが必要であった」。—初文 403 頁

第7段落（SDA聖書注解 971 頁第7段落）—よく問題になる引用文

天使が厳粛な誓いをもって、宣言しているこの時というのは、この世界歴史や恩恵期間の終りではなく、預言的時の終りのことであり、それは主の再臨に先行するものである。つまり、人々は特定の時について別の使命を持たないであろう。1842 年から 1844 年までに及ぶこの期間の後には、特定の預言的時を追求することはあり得ない。最長の計算は 1844 年の秋に達する。（SDA聖書注解 971 頁第7段落）

この段落の中で彼女は、天使が「預言的時の終り」を宣言していると述べています。しかし第4段落において彼女は、「ダニエルは、日の終りに、彼に分け与えられた地に立つであろう」、そして「小さな巻物の開封は、時に関するメッセージであった」と述べています。また彼女は、ダニエルの預言的期間は「大終結の前夜」までのびているとも述べています。私たちは、一見矛盾しているように見えるこれらの引用文をどのように調和させるのでしょうか？

彼女が2番目の文の初めに「つまり」という言葉を用いていることに注目してください。この言葉は、彼女が1番目の文で述べたばかりのことを再び説明していることを意味しています。「つまり」の次に残りの文は、彼女が1番目の文の中の「預言的時」という言葉を用いて述べようとしていたことの文脈を明確にしています。彼女は、「預言的時」という言葉の使用を「特定の時」として明確にしています。次の引用文で、エレン・ホワイトは、イエスの再臨の時を表わすのに、「特定の時」という語句をいくつかの箇所を用いていることに注目してください。これによって、「つまり、人々は特定の時について別の使命を持たないであろう」という文を「つまり、人々は再臨の時について別の使命を持たないであろう」と理解することができます。彼女は、イエスの再臨の特定の時をもう説くべきではないと考えていましたが、彼女は決して、我々はキリスト再臨の前の諸事件のタイミングを理解することはないでしょうと述べようとしていたのではないのです。

「しかし、神は、審判の警告（1844年のイエスの再臨）をそのまま伝えることをお許しになって、ご自分の恵み深い御目的を果たされた。大いなる日が近づいていた。そして神は摂理のうちに、人々に彼らの心の状態を示すために、特定の時に関する試験をお与えになった」。—大下 47

「キリスト再臨の時として特定の時を宣言したことは、あらゆる階級の多くの者、すなわち、説教壇に立つ牧師から神を恐れぬ無暴な罪人に至るまでの、大反対を受けた」。一大下 68

これらの引用文は、エレン・ホワイトがイエスの再臨の特定の時／日付を設定するメッセージは決して二度とあってはならないと述べたということを明確にする助けとなります。しかし私たちはキリストの再臨の明確な日付を知らなくても、それが近いということは分かります。

「私たちには、その日その時、あるいは特定の時がいつかは知らない。けれども、預言的計算はキリストが戸口まで来ておられることを示している」。一原稿（英文）第 10 巻 270 頁、1888 年

忘れないでください：「大終結の前夜までのびているダニエルの預言的期間は、その時に起る諸事件に光の洪水を投げかけている」。—レビュー・アンド・ヘラルド誌（英文）1883 年 9 月 25 日

私たちは、この第 7 段落の残りの文をどのように説明したらよいでしょうか？「1842 年から 1844 年までに及ぶこの期間の後には、特定の預言的時を追求することはあり得ない。最長の計算は 1844 年の秋に達する」。キリスト再臨の日付の設定が次々となされたことを思い出してください。ひとつの日付が過ぎると、彼らの時の計算は新しい日付に延ばされました。「最長」の計算は「1844 年の秋」に達しました。私たちは、この日付は 1844 年 10 月 22 日であったと知っています。この最長の計算／日付の後には、更なる「追求」またはキリスト再臨の「特定の時」のための計算はあってはなりません。

第 8 段落（S D A 聖書注解 971 頁第 8 段落）

一つの足を海の上に、他の足を地の上に踏みおろしている天使の位置は、そのメッセージが広い範囲にわたって宣言されることを意味している。それは広い海を渡り、他の国々へ、全世界にまで伝えられるであろう。小さな巻物を食べるという描写は、真理を理解し、メッセージを喜んで受け入れることを意味している。我々の主の到来の時に関する真理は、我々の魂にとって尊いメッセージであった」。（S D A 聖書注解 971 頁第 8 段落）

最後の第 8 段落は、「時に関するメッセージ」（第 4 段落）は「全世界」にまで伝えられるであろうということを未来の文脈で告げています。